

# 雪冷熱に大きな期待込めて

## 県が津南町に建設したデータセンター運転開始

県が津南町で建設を進めていた雪冷熱活用データセンターの運転開始式が21日、グリーンピア道路沿いの現地で開かれ、泉田裕彦知事や上村憲司町長らがテープカット、本格運転を祝った。コンテナ1台でスタートを切った。

開始式であいさつした泉田知事は「現在、日本のデータセンターは都市部に集中しているという特徴がある。特に冷房に料金がかかることから海外への設置も進んでいるが、国家安全保障の観点からも日本のデータは日本で管理する方が望ましい」と指摘した。

また「地方創生という観点でも、地方でこのデータをしっかりと守り、それを維持できる人材を集積する。教育環境



泉田知事らがテープカット（上）、コンテナ内部・右にラックが並ぶ（下）



を整えていくということ、大変未来に可能性が広がる事業」と大きな期待を寄せ、「データをとりながら、将来に向かって是非拡張してみたい。津南の地の優位性を理解し、来てもらえる環境整備も是非進めたい。これは全国的にも先進的な事業、雪冷熱を使うということから地球温暖化防止対策にもつながる」として、「これは未来への投資。きょうの運転開始が、『あの時歴史が変わった』と振り返られるよう頑張りたい」と語った。

また、来賓の上村町長は、「思い返すと一昨年は、雪冷熱を使うという知事が津南のふれあいトークで、このホワイトデータ構想という考えを述べたのが初めてだった。それがこの津南の地で具現化されるとは思っていなかった。雪を活用するシステムというのが何よりも嬉しい。雪の恵み

を感じるようになった。その一つがこのホワイトデータセンターだ」と、県の取り組みを称えた。

**建屋建設のリスクなくすコンテナ型**

津南町で本格運転を開始したデータセンターは、雪冷熱を利用したコンテナサーバー、というのが大きな特徴。コンテナは電源や空調、サーバー機器を1台ごとにフル装備。増やす時も土地さえあれば簡単に増設でき、最初から投資して大

は「GW明けから試運転していた。（雪が解ける）今年9月上旬までの冷熱を予定、これから検証に入る。電力料の48%削減を計画しているが、実証して効果を検証していきたい」と語り、「電力料が安くなるので競争力を持たせられる、PRしながら企業誘致につなげ、データセンター立地に伴ってITなど情報産業の（誘致）促進につなげたい」と期待を語った。

**雪冷熱で電力料48%削減を目標**

データセンターのうち、雪の貯蔵と熱交換して冷気を送る施設を県が1億円で整備。運営は県が民間会社に委託している。雪貯蔵場所は25層四方の広さ、雪の高さは約4層、3100立方分の雪を溜め、全面を高断熱シートで覆っている。

コンテナには最大6ラック設置可能で、1ラックで政令指定都市の全データを入れられるという。（株）ゲットワークス（本社・さいたま市）と共同開発している（株）アオ

スフィールド（本社・新潟市）の佐藤丈則社長は「福島県白河市にもデータセンターがあり、津南は何かあったときにコンテナだと持っていくのがいい」と期待を語った。

スフィールド（本社・新潟市）の佐藤丈則社長は「福島県白河市にもデータセンターがあり、津南は何かあったときにコンテナだと持っていくのがいい」と期待を語った。

率も高い。電源や空調関係の内蔵型は（株）ゲットワークスの特許」と、アピールしていた。

率も高い。電源や空調関係の内蔵型は（株）ゲットワークスの特許」と、アピールしていた。